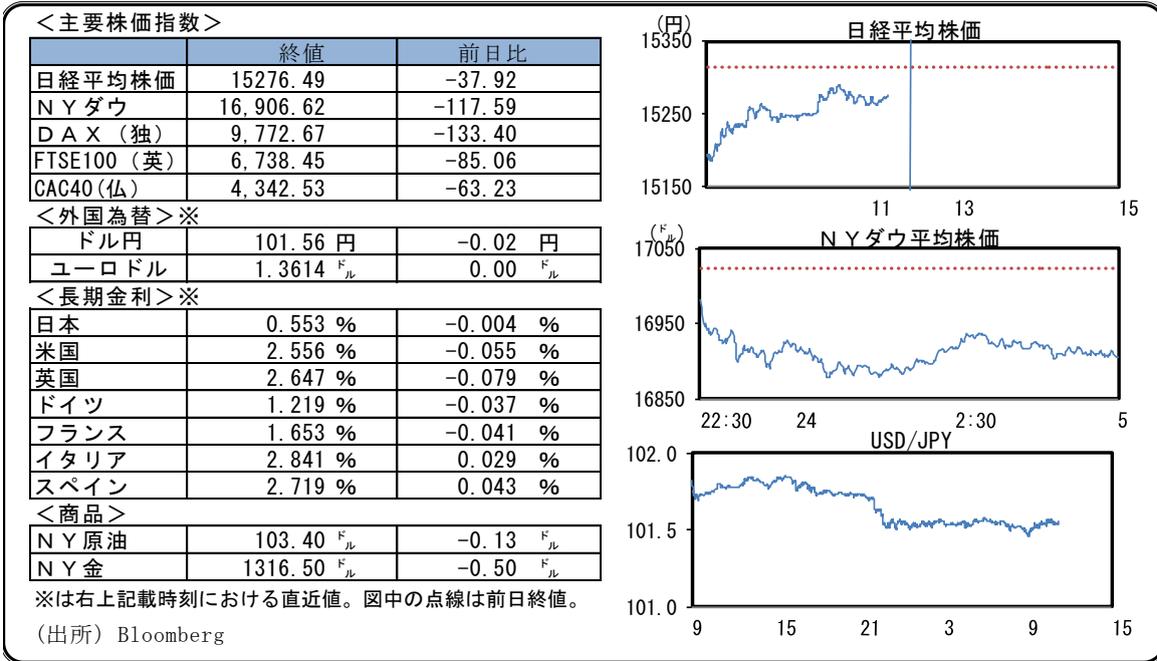


## ドル安予想は少数派に

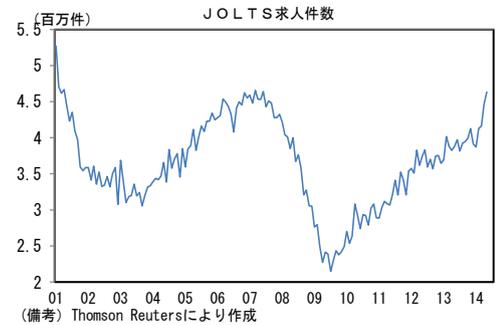
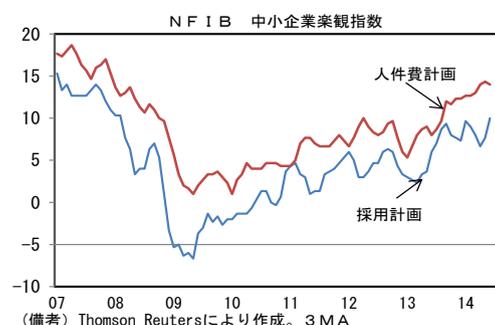
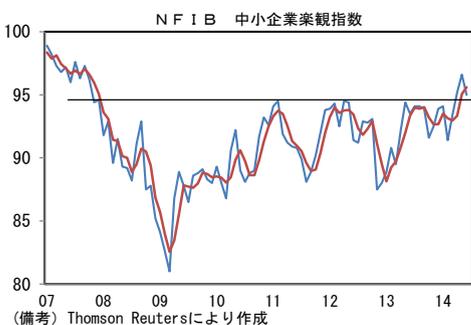
第一生命経済研究所 経済調査部  
藤代 宏一  
TEL 03-5221-4523

11:15 現在



### 【海外株式市場・経済指標他】 ～決算シーズン前に～

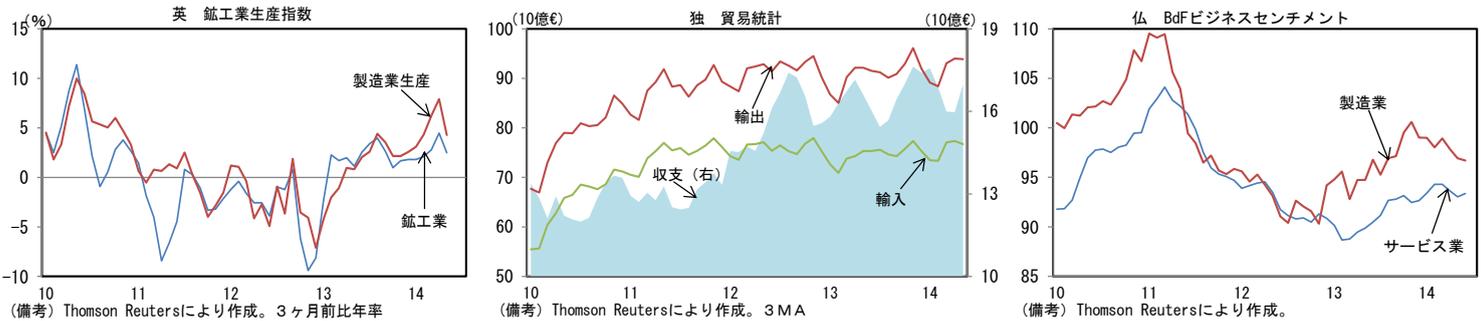
- ・ NYダウ平均株価は前日比▲117.59の16906.62<sup>ドル</sup>で取引終了。決算シーズンを間近にして利益確定か。
- ・ 6月NFIB中小企業楽観指数は95.0と市場予想(97.0)に反して前月(96.6)から下落。もともと、3ヶ月連続で改善した後の軟化であり、均してみれば依然基調は上向きと言える。悲観論に傾けるには相当な距離がある。2Q平均も95.6と1Q平均(93.0)を大幅に上回った。雇用関連項目では人件費計画が軟化した一方、採用計画が改善と区々。ただし、いずれも景気後退後の最高水準で推移しており、雇用・賃金増の加速を示唆する領域にある。
- ・ 5月JOLTS求人件数は463.5万件と前月(446.4万件)から一段と増加し、2007年6月以来の高水準に到達。過去数ヶ月の著しいNFP増を裏付ける内容となった。自己都合退職者数は253万人と前月(247万人)から増加。離職率は1.8%で変化なし。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

**【外国為替相場・債券市場】～議事録はタカ・ハト入り混じる内容か～**

- ・前日のG10通貨はJPYの強さとUSDの弱さが目立った。USD/JPYは欧州時間に下落を開始、その後米現物株の下落を受けて101.50を割れた。9日日本時間は日本株下落幅縮小を受けて、USD/JPYは101.50を回復。
- ・米10年金利は▲5.5bpの2.556%。欧州市場のリスクオフをきっかけにラリー開始。欧州債市場はコア・セミコア堅調、GIIPS軟調。FED高官は、ラッカー総裁（タカ派）が経済見通しをやや弱気に変更（3%成長の可能性は低い）したうえで「インフレ圧力を抑制するために適切な時期に景気刺激策を引き上げる必要がある」と従来の見解を踏襲。コチャラクタ総裁（ハト派）はインフレ率が「年末までに鈍化」と予想したうえで、2%ゴールの達成が2018年になるとの見解を示した。このようにFED内部の意見は様々。本日公表のFOMC議事録もタカ・ハト入り混じる内容となろう。欧州経済指標は5月英鋳工業生産が予想外に減産。特に製造業は▲1.4%と大幅に落ち込み、高水準で推移するPMIと比較して違和感がある結果となった。同じく弱かった独生産統計にも共通するが、イースター休暇による季節調整の歪みが影響している可能性が指摘ある。その他では独貿易統計で輸出入が減少。仏ビジネスセンチメントは97と横ばいだった。

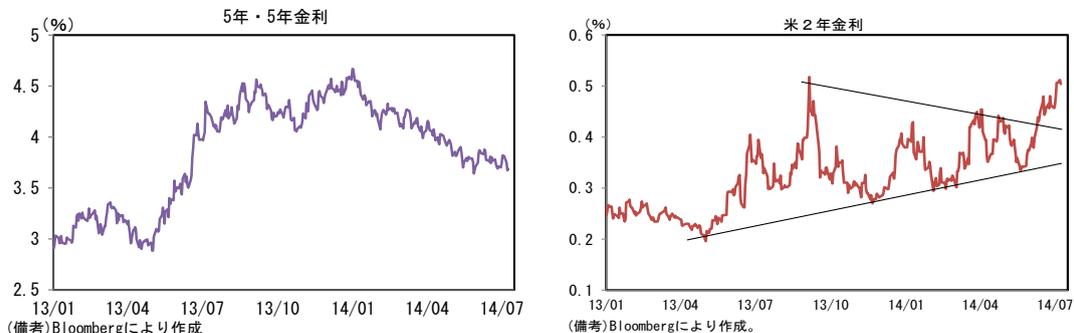


**【国内株式市場・経済指標他】～雇用統計翌週は軟調～**

- ・日経平均株価は欧米株安を受けて安寄り後、下落幅縮小。
- ・昨日発表の景気ウォッチャー調査は現状判断(SA)が46.7と3.6pt改善、先行き判断も52.1と1.1pt改善した。ただ、何れも予想を下振れたうえ、改善幅が縮小している点は懸念材料。やや期待はずれの結果だ。

**【注目点】～ドル安予想は少数派に～**

- ・USD/JPYは6月雇用統計をきっかけにレンジブレイクを試すかと思いきや、既に雇用統計前の水準まで押し戻されてしまった。しかしながら、米2年金利の上昇はUSD/JPY上昇を支持しており、USDに強気な筆者の追い風となっている。米2年金利は昨年9月以来で初めて50bpの壁を突破、約3年ぶりの水準に回帰。テクニカル的にも三角持合を上放れるなど上昇基調が鮮明だ。FEDの長期均衡政策金利見通しの下方シフト(4.0%→3.75%)を受けて5年フォワード金利が低下する一方、FEDの政策金利見通し引き上げ(15年:1.00%→1.13%、16年:2.25%→2.50%)や最近のインフレ率加速を反映して2年周りが上昇。議論の余地が大きい5年フォワード金利の低下はともかく、2年金利の上昇は利上げまで2年を切ったことを象徴する。かかる状況下、低金利通貨(JPY, EUR, CHF)のショートポジション構築は何ら違和感のない戦略だ。米景気拡大が崩れない限り、金融政策のベクトル相違を反映した「USD強気」がコンセンサスだろう。14年入り後の米物価統計の着実な上昇が低金利通貨に対してのUSDロングを更に正当化する。USD下落を見込む向きはより一層少数派になろう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。